

子宮頸がん予防ワクチンが 接種できるようになりました

- **対象者** 中学3年生～高校1年生相当の女性
(阿蘇市に住民票がある方)
平成7年4月2日～
平成9年4月1日生まれの方
- **接種期間** 平成24年3月31日まで
- ※平成23年3月31日以前に接種した分の費用助成はありません。
- **接種費用** 自己負担 2,000円/回
- **接種回数** 3回
- **接種スケジュール**
1回目の接種の後、1ヶ月後に2回目、2回目の5ヶ月後に3回目の接種を行います。
- **接種場所** 阿蘇市の委託医療機関
(34ページを参照)
- **当日必要なもの**
- 保険証等の住所
- 年齢が確認できるもの(予防接種問診票は委託医療機関にあります)
- 母子健康手帳、予防接種済証など
- 子宮頸がんワクチンの接種の記録が確認できるもの
- ※接種には保護者の同伴が必要です。
- **予防接種の副反応について**
- 接種者の79～99%に注射部分の痛み・赤み・腫れがみられます。
- 全身性の副反応として、胃腸症状、筋肉・関節の痛み、頭痛、疲労、発疹、じんましん、発熱等がみられることがあります。
- 予防接種時の血管迷走神経反射による顔面蒼白、全身の冷感、血圧

低下、失神または意識消失がおこることがあります。

○ 重い副反応としてアナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。

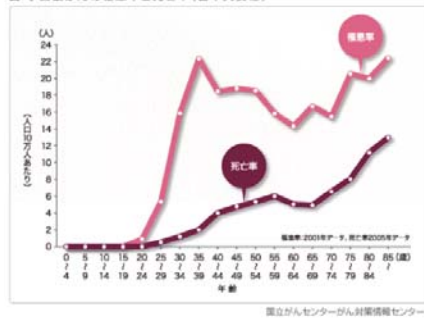
※接種後30分程度は医療機関で様子を見る等、医師とすぐ連絡の取れるようにしておきましょう。

●子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型の感染が関与しているといわれています。HPV感染の予防には、ワクチンの接種と定期的な検診が効果的です。

●HPVは主に性交渉で感染します。特別な人だけが感染するのではなく、多くの女性が一生のうち一度は感染するごくりふれたウイルスですが、多くの場合、感染は一時的で症状のないうちに排除されるため、発がんすることはまれだと考えられています。(1,000人に1～2人程度)。

●子宮頸がんの発症は20～30代に急増しています。このため10代でのワクチン接種が予防に効果的と考えられています。

図：子宮頸がんの罹患率と死亡率(日本人女性)



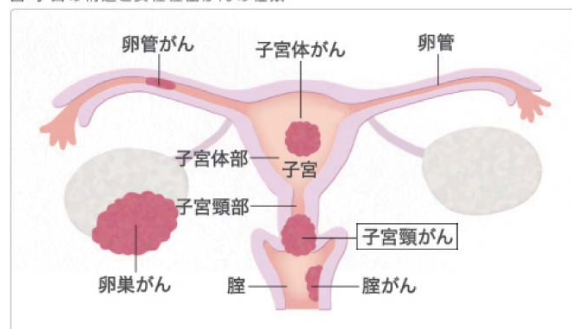
■ 予防接種の効果について

●子宮頸がんワクチンは、子宮頸がん全体の6～7割の予防に効果的だといわれています。

●効果がどのくらい持続するかはよく分かっていません。少なくとも5～6.4年後までは前がん病変(がんになる前の異常な細胞)の発生を予防する効果が持続すると考えられており、20年間は自然感染よりも高い抗体価を維持できると推計されています。

●接種時にすでに感染している場合のウイルス排除や、前がん病変の進行を遅らせる効果は期待できません。定期的な子宮頸がん検診の代わりにはなりません。接種後も、定期的な子宮頸がん検診の受診や性感染症の予防が必要です。子どもさんだけでなく、お母さんも忘れず定期的な検診を受けましょう。

図：子宮の構造と女性性器がんの種類



(国立がんセンターホームページより)

- ① 明らかかな発熱を呈している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうが良いと言われた方
- **予防接種による健康被害救済について**
ワクチン接種により健康被害が生じた場合には、阿蘇市予防接種事故災害補償規定及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき対応します。
- ※子宮頸がん予防ワクチンの供給不足の情報が入っております。事前に医療機関にご確認ください。